

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [30302] 特異的IgE Gly m 4
- [30303] 特異的IgE Hev b 6.02

受託開始日

- 平成28年2月1日 (月)



特異的IgE Gly m 4・Hev b 6.02

特異的IgEで測定可能な項目には、主に粗抽出抗原が用いられており、その中にはその病態との関連性が必ずしも高くない成分も含まれています。アレルギーコンポーネント特異的IgE検査は、粗抽出抗原のうち特定の成分のみに対する特異的IgEを測定するものです。

この度、下記2種類のアレルゲンコンポーネントの検査を開始致します。

● Gly m 4 (大豆由来)

大豆は枝豆などそのままを食する以外に、豆腐や納豆、豆乳などをはじめとする様々な加工品があり、豆乳等を摂取した際に口腔内に掻痒感を覚えるなどアレルギー症状を訴える患者さんが増加傾向にあるといわれております。

近年、花粉関連食物アレルギー症候群 (pollen-associated food allergy syndrome; PFS) が増加傾向にあり、PFSは口腔アレルギー症候群 (oral allergy syndrome; OAS)の中で花粉症に合併することが多い食物アレルギーとされています。大豆のコンポーネントの一つである「Gly m 4」は、シラカンバやハンノキ等のカバノキ科花粉の主要抗原であるPR-10 (Bet v 1ホモログ)と高い相同性を持つとされており、PFSに関連するコンポーネントの一つと考えられています。

豆乳等の大豆加工品によるアレルギーが疑われる患者さんには、通常行われている粗抽出抗原による「大豆」では陽性になりにくい場合もあるため、「Gly m 4」を検査することにより陽性率の向上が期待され、PFSによる即時型アレルギーの診断に有用と考えられます。

● Hev b 6.02 (ラテックス由来)

ラテックスアレルギー (LA) は、ラテックス製手袋などを用いることが多い医療従事者で発症する例が多いとされています。従来の粗抽出抗原を用いた「ラテックス」では、陽性と判断された場合でも、実際にラテックス製品を使用して症状が出ない例もありました。

そのような症例において、粗抽出抗原を用いた「ラテックス」と「Hev b 6.02」の結果がいずれも陽性であれば、LAの可能性が高まります。従来の「ラテックス」と臨床的特異度が高い「Hev b 6.02」を組み合わせて使用することで、LA診断効率が向上できるものと考えられます。

検査要項

項目コード	30302	30303
検査項目名	Gly m 4	Hev b 6.02
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵	
検査方法	FEIA	
基準値	0.34 U _A /mL 以下	
所要日数	2~3日	
検査実施料	各110点 ([D015] 血漿蛋白免疫学的検査 [11] 特異的IgE半定量・定量)	
判断料	144点(免疫学的検査判断料)	

参考文献

- 足立厚子, 他: Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergy 6(2): 60-66, 2012.
白田阿美子, 他: 日本ラテックスアレルギー研究会会誌 17(1): 85-90, 2013.
柴田留美子, 他: 医学と薬学 72: 1497-1502, 2015.